

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375700933		
法人名	株式会社 アイティーシー		
事業所名	グループホーム福住苑 華		
所在地	知多郡阿久比町大字福住字荒古67-2		
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果市町村受理日	平成29年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

和風平屋建てのホームで2ユニット18人がゆったりと過ごしています。季節感を大切に、花壇の花や年中行事などで職員と入居者が一緒になって季節の移り替わりを楽しんでいます。皆さんで歌や体操など笑顔と笑い声の絶えないホームです。絵手紙、パン作りなども楽しみのひとつです。地域との繋がりを深めるよう、地域行事等へ積極的に参加しています。認知症専門医との連携もあり入居者様の状況に応じ相談するほか、医療面でも一層の充実を目指し日頃から介護職員との情報交換がしやすい環境を整えています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JlgvosvoCd=2375700933-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル2階		
訪問調査日	平成29年3月6日		

事業所は、閑静な住宅や田畑の広がる丘陵地に位置し、四季折々の雄大な景色が楽しめる環境にある。和風平屋建てのホームには木材が多く取り入れられ、玄関や和室には歴史を語る調度品が程よく置かれ、木の温もりや優雅さを感じ取れる空間となっている。「介護は仁なり」の理念を職員で共有し、開所当初の「優しさ」を基本に日々のケアに繋げるように心がけている。花壇や菜園の手入れ、収穫なども行ったり、友人の誘いで馴染みのカラオケに出かけたり、独り外出やタクシーを利用しての買い物など、自由な暮らしとその時々思いや懐かしみなどの関係性が継続できるように支援している。絵手紙や踊りなどのボランティアを受け入れ、一緒につくり踊ったりして、大人の趣味を生活に活かしている。座りたいところにさりげなく椅子が置かれていたり、明るく広い居間のソファに腰かけ、朝日や夕日に染まるロケーションを楽しんだり、気心の知れた同士で談笑を楽しんだり、テレビを見て寛いでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「介護は仁なり」という運営理念に基づき、優しさを心にと常にミーティングしながら玄関やスタッフルームに掲示し、あたたかいホームを目指している。	法人の理念「介護は仁なり」を目に付きやすい事業所の玄関に掲示している。開所当初よりその思い「優しさ」を一番大切に、理念に沿って職員が共通理解を深め、ケアに繋げるように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア活動の方の応援などを得て、カフェを楽しんだり地域行事を見学に行ったり、近所の方の訪問も多い。	町内会に加入し、回覧板や口込み、運営推進会議等を通じて情報を収集したり、事業所の情報を発信している。日々の散歩や神社の催し、盆踊り、つり雛見学等地域行事に参加している。また、月1回ふれあいサロンに出かけ、お茶を飲みながら懐かしい友とおしゃべりを楽しむ等、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	この12年間の実績を元に、運営推進会議には民生委員様、区長様を通じ、地域への情報発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場の方、区長、地域の方々に色々なことが発信されたり勉強したり出来る。	入居者、家族、区長、民生委員、包括支援センター職員、行政の参加を得て年6回開催している。事業所の状況や行事の報告、出席者からの地域行事や行政の情報などがあり、活発な意見交換が行われ運営に活かされている。毎回家族へ開催案内を出している。参加できなかった家族へ議事録の送付はしていない。	会議案内と共に、年間の会議内容を知らせるようにしたり、日程調整をしたりして、より多くの参加者を得て開催できるような取り組みを期待したい。また、参加できなかった家族へ議事録を送付して、会議内容を知らせ、会議の参加への促しが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	講習会など、介護課との連携や指導を受けている。	更新手続き代行の折に、入所に関する相談等について行政担当者に指導や助言を得ている。また、機会あるごとにサービスの内容を伝え、協力関係を深めるようにしている。町主催の研修に積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアを実践している。	入居者には常に親しみを持った自然な声かけや話し方、個々に合った接し方に務めている。身体拘束についての勉強会を行い意識を高め、スピーチロックやドラックロックなどの束縛感のない環境やケアに努めている。安全性に配慮のため門扉の施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体虐待だけでなく精神面の苦痛も与えることのないよう注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会に参加して勉強して来たことを、勉強会を開き学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、共通認識と理解が得られるよう、わかりやすく説明を行っている。また、契約締結後も必要に応じて相談。終末期のケア内容について個別性や家族環境が異なるため難しさを感じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気兼ねなく入居者家族が意見を言える優しい雰囲気作りを大切にしている。	入居者からは日常のケアの中で把握し、その都度検討をしている。家族からは面会や行事時などで意見や提案を聞き、介護日誌に記載し、ミーティング等で話し合い、運営に反映させている。ホームだより「福住苑」で家族に情報を提供し、安心感を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コミュニケーションはいつでも出来る状況で、常に意見交換できる雰囲気を作っている。	日常の業務の中や申し送り時、また、月1回の勉強会やユニット会議で職員の提案や要望を聞き、話し合いをして運営に反映させている。いつでも話せる機会があり個人面談も実施し、要望、意見、悩みなどを聞く機会を設け、運営に反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員と直接話をする機会を多く持っており、細部まで行き届くよう努めている。勤務形態の要望など、職員が気持ちよく仕事のできる職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会には希望があればどんどん行くよう勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の企画、グループホーム協議会などの情報交流活動に参加し交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの「どうしたら良いのかわからない」といった相談や、ホームでの暮らし、手続きの仕方なおの丁寧な受け答えを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのコミュニケーションを重視し、家族からのオームでの暮らしに対する要望があれば検討し応じられるよう努めている。初期は特に近況報告をまめにし、丁寧な受け答えを心掛け関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	楽しい家族の暮らしとして、本人・家族・職員の意見交換により見極めを心掛けている。地域住民によるインフォーマルな支援の併用により多面的な関わりを心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者同士も暮らしの中の役割を、それぞれに担いつつ、得意とする分野では手伝っていただいたり、共に楽しく暮らすことを目標にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	暮らしの場が離れていても、家族の不安や悩みについても共に考えている。ホームの近況報告など、話題提供を積極的に行い、面接時に話題を理解しやすいように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間に制限を設けず面会できる環境を維持したり、家族より情報提供をいただき馴染みの人や場所の話題を折り込みつつ、忘れない支援を試みている。	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人、場所を把握し、ケアに活かせる様に努めている。入居者の友人や家族が来訪し、旧交を深めている。畑の作業、友人の誘いで馴染みのカラオケに出かけたり、家族、住職の協力のもとにお墓参りに出かける方もおり、その時々思いや懐かしみなどの関係性が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や雰囲気を見つつ、職員が話題を転換するなど間に入ることもある。利用者によっては座る位置にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中の入居者への面会や、契約終了後の相談も可能な範囲で応じている。年賀状など季節の挨拶のほか、退居後に亡くなられた場合でも、家族との付き合いが継続しているケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「伝えたい要望・意向」に対する理解など、言葉にならない要望や意思の受け止めや言葉の意味とは違っても職員の感じたことを共有し、本人の意向把握に努めている。	入居者との会話や表情、行動から意向の把握に努め、日誌に記入し、随時職員間で話し合い本人の思いに沿えるようにしている。思いの表出の少ない入居者については、家族からの情報を得るようにしている。また、希望の把握が押しつけにならない支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や紹介者からの情報をとともに、入居者のしぐさや昔話を耳を傾け、生活歴や生活パターンの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況や病気との兼ね合いなど、背景となる情報を加味した上で、入居者の活動について簡潔な記録の実践を通し情報伝達と状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画案は担当者がまず検討、カエカンファレンスの情報を反映し、家族や関係者との調整がなされて、入居者にとって快適な生活環境を提供できるよう心掛けている。	入居者の意向を聞いたり日常の様子を記載した個別記録を基に、家族の意向や意見をふまえて、ミーティングで検討して介護計画を作成している。3か月毎にモニタリングをし、3か月に1回の定期見直しや状況に応じて随時見直しをし、家族に内容を説明し同意を得ている。どの職員も記録内容を共有したり、入居者の状態を把握し同じケアができるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスや介護職員からの聞き取りからは、細かな工夫についての情報が抽出できる。介護記録の目的を理解し、端的に表現する取り組みが課題です。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	昼夜を問わず生活全般の支援にあたるため、そのニーズも多岐にわたる必要性やニーズへの状況に応じた柔軟な対応を目標に、決めつけのない介護を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政機関との連携のほか、近隣の中学校・高等学校からの職場体験学習の受け入れなどを通し、入居者には世代間交流の機会も創出する段階的に地域資源の把握と活用が出つつある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの提携医療機関をかかりつけ医とする入居者が多いが、なかには家族の意向により希望の医療機関を利用される入居者もある。	入居時にかかりつけ医、提携医の希望を聞いて選んで頂いている。提携医による月2回内科、皮膚科、月1回歯科の往診がある。従来のかかりつけ医を希望する方や、専門医の診察が必要な場合は家族の方をお願いしているが、困難な場合、送迎や受診助助を行っている。受診に関わる情報や薬の取り扱いについては、職員間で確認しながらケアに繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに勤務する看護師により、日頃の健康管理を行っている。入居者が受診の際には助言したり、医師からの指示を介護職員に伝達する役割を担っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、スムーズに手続きできるよう日々のデータを管理し医療機関の担当者への情報提供を行うとともに、入院期間中の情報と退院後の支援内容についての協議を重ね、面会により入居者の心身の安定をみて早期の退院支援を行えるよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時や家族面談などの機会、早い段階から本人や家族の重度化した場合の確認・共有できるように心掛けている。また、必要に応じて個別面談にて意向確認を実施している。	重度化や終末期、看取りについては入居時に意向や希望を聞き、終末期の説明をし同意を得ている。状況が変化した場合はその都度、本人や家族に希望を再確認し、医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や高齢者特有の疾病による急変への対応について、勉強会を開催するほか、救急救命講習の受講を奨励している。緊急時に動揺しないように状況設定を少しずつ変え、模擬訓練の実施をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	食料や水の備蓄のほか、非常時にはホームの近く住居する職員や、近隣の住民に協力・支援をいただけるよう、日頃からの付き合いを大切にしている。避難経路の確認や、消防訓練の定期的実施している。	年2回昼、夜間の火災を想定した訓練を行っている。消防署の立会いの下に、訓練を実施し講評も得ている。AEDの使用法を入居者と一緒勉強会も実施している。運営推進会議等で地域の人たちとの協力体制は整っている。水や食料など7日分の備蓄を蓄えている。	災害時に事業所として地域に協力してもらいたいこと、事業所として地域にできることなどを運営推進会議等で具体的に話し合う機会を設け、相互に協力体制を整えていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを持ちながらも、個人の尊厳を守り、慎重に言葉を選ぶ習慣づけを行うとともに、接するときの態度には注意を払っている。	入居者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや笑顔の対応に努めたり、慣れ合いによる不適切な対応をしないよう相互に注意し合いながら、支援するようにしている。入居者の個性や人格、相性などを考慮し、それぞれのプライバシーや立場を尊重したケアに心がけ、より良く過ごせるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように声かけしたり、見守っている。言葉を置き換えたり、入浴時や寝る前など、時間をおいて個別に確認をしたりするなど、希望を表現しやすい手法やタイミングを計っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活を確認し、カンファレンスに上げて細かいケアにつなげるようにしている。職員側が時間配分の主導権を持たないよう心掛けているが、まだまだ改善の点がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりのある人についても本人の選択を尊重しつつ支援をしている。理美容は地域住民とのふれ合いとしても実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園で採れた野菜や、近所でいただいた果物も食卓を飾り、職員とともに作るパンは、作ることも食べることも楽しみとなっている。下膳を自らされる入居者は多いが転倒されないよう注意している。	業者委託から、四季折々の食材が届けられ、調理は事業所で行っている。畑で収穫した野菜を使った献立や五目御飯、サンドイッチなどのお楽しみ献立、花見弁当などの支援も行っている。パン、おやつ作りは職員と一緒に作り楽しんでいる。職員の見守りの中、入居者は会話をしながら食事をしている。準備や片付けは衛生面、安全面を考慮して職員が行っている。	菜園で収穫した野菜や地域の人からの野菜を使っの調理、パン、おやつ作りを行ってはいが、調理の準備として野菜の皮むき、すじ取り、配膳、片付けとして下善、食器洗いなど保有能力を生かし、培った経験を楽しみながら日常に活かすような支援ができることを望みたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した食事の提供を行うとともに、好みや咀嚼力など身体状況に応じた提供確保を実施している。食事の摂取量や水分量についての確認・記録を継続的に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日頃の口腔衛生への配慮として歯磨き、うがい、義歯洗浄などの口腔衛生に努めている。また、歯科医師の検診、義歯調整などの支援により、噛んで食事をとることのできる方が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる部分は見守り、必要に応じて排泄チェックや誘導を行っている。一人ひとりのスキントラブルにも配慮し、おむつの種類の変更も適宜行っている。	座位での排泄やおむつを使わない支援に心がけている。排泄チェック表をもとにカンファレンスで共通理解を図り、一人ひとりに寄り添い、声かけやタイミングなどを工夫し、適切な支援をしている。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援を行っている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師、薬剤師の意見を参考に、水分の摂取や食物繊維や乳製品の摂取や、散歩などの軽運動を働きかけることによる自然排便に向けての支援を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴順序の選択については、幅を持たせて考慮しており、会話を楽しみながら、ゆったりと入浴を楽しめる支援を心掛けている。	週2回、午前、午後入浴時間としている。希望者は毎日でも入浴でき、ゆず湯、菖蒲湯、入浴剤の使用で入浴が楽しめるようにしている。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転の防止に努め、生活リズムの安定を図るよう心掛けている。夜間のトイレのパターンなど、入居者一人ひとりの、その時々状況に応じた、さり気ない支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師を連携し、誤薬のないよう確認を徹底している。薬の処方と薬情を確認し、服薬の支援をすると同時に症状の変化の確認を怠らないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭の手入れなど、暮らしの張り合いにしたいなど家族からの情報や生活歴や好みに応じて自然体で暮らせる工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族との外出が出来るように支援している。ホームから一緒に連れ立って出掛ける機会が多く、近所の散歩、花見をはじめ、季節の催しに出掛けることを心掛けている。	日常的には周辺の散歩や買い物、喫茶店への外出などを行っている。花壇や菜園の手入れをしたり、野菜の収穫なども行い外気に触れる機会を大事にしている。独り外出、タクシーを利用しての買い物、友人とのカラオケ教室へは、見守りながら支援している。家族の協力を得ながら、遠出の外出、お墓参りや外食を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に小遣い程度の買い物を実施するなど、金銭感覚の維持を目標に、職員の見守りのもとで、可能な範囲で金銭に触れる機会を心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プレゼントが送られてきたときに、お礼の手紙を書く支援をしたり、電話など、家族や大切な人への取り次ぎの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに職員と入居者が一緒になって、花や壁飾りを替えることで空間演出をし、自然光の入るリビングで心地よく過ごせるよう心掛けている。不快な音や光、振動のほか、除菌や匂いについても快適性を求めている。	天井が高く採光や風通しの良い食堂と居間がワンフロアの共有スペースで、入居者の動きや気配がよく見渡せる。余分な物はなく心地よく過ごせるよう配慮されている。休みたいところに椅子が置かれたりしている。広々とした居間でテレビを見たりしてのんびり過ごしている。明るい居間には、季節に応じた手作りの作品が適度に飾られ、大人の生活空間が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファのほか、ホームの中を自由に行き来でき、思い思いの気に入った場所で過ごしている。景色のよい窓際や、庭先の花壇の近くのベンチは季節によって人気がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具やベッドなどを持ち込まれるよう家族にも協力をいただいている。レクリエーションで作った、気に入った作品は好みの場所への飾りつけで部屋を飾っている。	各居室にユニットバス、トイレが設置されている。自宅で使用していたものを持ち込んで安心できるスペースを確保している。また、本人や家族が希望する小物や写真を飾ったり、仏壇を置かれている入居者もおおり、居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には、ゆっくりつかまり歩きをすることにも支障がない。また、戸惑いの表情を見かけたなら職員からゆっくり順序立てて説明をし、納得を得るよう、わかる力を活かした支援を目指している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375700933		
法人名	株式会社 アイティーシー		
事業所名	グループホーム福住苑 雅		
所在地	知多郡阿久比町大字福住字荒古67-2		
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果市町村受理日	平成29年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

和風平屋建てのホームで2ユニット18人がゆったりと過ごしています。季節感を大切に、花壇の花や年中行事などで職員と入居者が一緒になって季節の移り替わりを楽しんでいます。皆さんで歌や体操など笑顔と笑い声の絶えないホームです。絵手紙、パン作りなども楽しみのひとつです。地域との繋がりを深めるよう、地域行事等へ積極的に参加しています。認知症専門医との連携もあり入居者様の状況に応じ相談するほか、医療面でも一層の充実を目指し日頃から介護職員との情報交換がしやすい環境を整えています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&Ji_gvosvoCd=2375700933-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル2階		
訪問調査日	平成29年3月6日		

事業所は、閑静な住宅や田畑の広がる丘陵地に位置し、四季折々の雄大な景色が楽しめる環境にある。和風平屋建てのホームには木材が多く取り入れられ、玄関や和室には歴史を語る調度品が程よく置かれ、木の温もりや優雅さを感じ取れる空間となっている。「介護は仁なり」の理念を職員で共有し、開所当初の「優しさ」を基本に日々のケアに繋げるように心がけている。花壇や菜園の手入れ、収穫なども行ったり、友人の誘いで馴染みのカラオケに出かけたり、独り外出やタクシーを利用しての買い物など、自由な暮らしとその時々思いや懐かしみなどの関係性が継続できるように支援している。絵手紙や踊りなどのボランティアを受け入れ、一緒につくり踊ったりして、大人の趣味を生活に活かしている。座りたいところにさりげなく椅子が置かれていたり、明るく広い居間のソファに腰かけ、朝日や夕日に染まるロケーションを楽しんだり、気心の知れた同士で談笑を楽しんだり、テレビを見て寛いでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「介護は仁なり」という運営理念に基づき、優しさを心にと常にミーティングしながら玄関やスタッフルームに掲示し、あたたかいホームを目指している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア活動の方の応援などを得て、カフェを楽しんだり地域行事を見学に行ったり、近所の方の訪問も多い。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	この12年間の実績を元に、運営推進会議には民生委員様、区長様を通じ、地域への情報発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場の方、区長、地域の方々に色々なことが発信されたり勉強したり出来る。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	講習会など、介護課との連携や指導を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体の拘束のないケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体虐待だけでなく精神面の苦痛も与えることのないよう注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会に参加して勉強して来たことを、勉強会を開き学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、共通認識と理解が得られるよう、わかりやすく説明を行っている。また、契約締結後も必要に応じて相談。終末期のケア内容について個別性や家族環境が異なるため難しさを感じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気兼ねなく入居者家族が意見を言える優しい雰囲気作りを大切にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コミュニケーションはいつでも出来る状況で、常に意見交換できる雰囲気を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員と直接話をする機会を多く持っており、細部まで行き届くよう努めている。勤務形態の要望など、職員が気持ちよく仕事のできる職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会には希望があればどんどん行くよう勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の企画、グループホーム協議会などの情報交流活動に参加し交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの「どうしたら良いのかわからない」といった相談や、ホームでの暮らし、手続きの仕方なおの丁寧な受け答えを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのコミュニケーションを重視し、家族からのホームでの暮らしに対する要望があれば検討し応じられるよう努めている。初期は特に近況報告をまめにし、丁寧な受け答えを心掛け関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	楽しい家族の暮らしとして、本人・家族・職員の意見交換により見極めを心掛けている。地域住民によるインフォーマルな支援の併用により多面的な関わりを心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者同士も暮らしの中の役割を、それぞれに担いつつ、得意とする分野では手伝っていただいたり、共に楽しく暮らすことを目標にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	暮らしの場が離れていても、家族の不安や悩みについても共に考えている。ホームの近況報告など、話題提供を積極的に行い、面接時に話題を理解しやすいように心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間に制限を設けず面会できる環境を維持したり、家族より情報提供をいただき馴染みの人や場所の話題を折り込みつつ、忘れない支援を試みている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や雰囲気を見つつ、職員が話題を転換するなど間に入ることもある。利用者によっては座る位置にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中の入居者への面会や、契約終了後の相談も可能な範囲で応じている。年賀状など季節の挨拶のほか、退居後に亡くなられた場合でも、家族との付き合いが継続しているケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「伝えたい要望・意向」に対する理解など、言葉にならない要望や意思の受け止めや言葉の意味とは違っても職員の感じたことを共有し、本人の意向把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や紹介者からの情報をとともに、入居者のしぐさや昔話を耳を傾け、生活暦や生活パターンの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状況や病気との兼ね合いなど、背景となる情報を加味した上で、入居者の活動について簡潔な記録の実践を通し情報伝達と状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画案は担当者がまず検討、カエカンファレンスの情報を反映し、家族や関係者との調整がなされて、入居者にとって快適な生活環境を提供できるよう心掛けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスや介護職員からの聞き取りからは、細かな工夫についての情報が抽出できる。介護記録の目的を理解し、端的に表現する取り組みが課題です。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	昼夜を問わず生活全般の支援にあたるため、そのニーズも多岐にわたる必要性やニーズへの状況に応じた柔軟な対応を目標に、決めつけのない介護を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政機関との連携のほか、近隣の中学校・高等学校からの職場体験学習の受け入れなどを通し、入居者には世代間交流の機会も創出する段階的に地域資源の把握と活用が出つつある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの提携医療機関をかかりつけ医とする入居者が多いが、なかには家族の意向により希望の医療機関を利用される入居者もある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに勤務する看護師により、日頃の健康管理を行っている。入居者が受診の際には助言したり、医師からの指示を介護職員に伝達する役割を担っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、スムーズに手続きできるよう日々のデータを管理し医療機関の担当者への情報提供を行うとともに、入院期間中の情報と退院後の支援内容についての協議を重ね、面会により入居者の心身の安定をみて早期の退院支援を行えるよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時や家族面談などの機会、早い段階から本人や家族の重度化した場合の確認・共有できるように心掛けている。また、必要に応じて個別面談にて意向確認を実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や高齢者特有の疾病による急変への対応について、勉強会を開催するほか、救急救命講習の受講を奨励している。緊急時に動揺しないように状況設定を少しずつ変え、模擬訓練の実施をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	食料や水の備蓄のほか、非常時にはホームの近く住居する職員や、近隣の住民に協力・支援をいただけるよう、日頃からの付き合いを大切にしている。避難経路の確認や、消防訓練の定期的実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを持ちながらも、個人の尊厳を守り、慎重に言葉を選ぶ習慣づけを行うとともに、接するときの態度には注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように声かけしたり、見守っている。言葉を置き換えたり、入浴時や寝る前など、時間をおいて個別に確認をしたりするなど、希望を表現しやすい手法やタイミングを計っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活を確認し、カンファレンスに上げて細かいケアにつなげるようにしている。職員側が時間配分の主導権を持たないよう心掛けているが、まだまだ改善の点がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりのある人についても本人の選択を尊重しつつ支援をしている。 理美容は地域住民とのふれ合いとしても実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園で採れた野菜や、近所でいただいた果物も食卓を飾り、職員とともに作るパンは、作ることも食べることも楽しみとなっている。下膳を自らされる入居者は多いが転倒されないよう注意している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した食事の提供を行うとともに、好みや咀嚼力など身体状況に応じた提供確保を実施している。食事の摂食量や水分量についての確認・記録を継続的に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日頃の口腔衛生への配慮として歯磨き、うがい、義歯洗浄などの口腔衛生に努めている。また、歯科医師の検診、義歯調整などの支援により、噛んで食事をとることのできる方が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる部分は見守り、必要に応じて排泄チェックや誘導を行っている。一人ひとりのスキントラブルにも配慮し、おむつの種類の変更も適宜行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師、薬剤師の意見を参考に、水分の摂取や食物繊維や乳製品の摂取や、散歩などの軽運動を働きかけることによる自然排便に向けての支援を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴順序の選択については、幅を持たせて考慮しており、会話を楽しみながら、ゆったりと入浴を楽しめる支援を心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転の防止に努め、生活リズムの安定を図るよう心掛けている。夜間のトイレのパターンなど、入居者一人ひとりの、その時々状況に応じた、さり気ない支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師を連携し、誤薬のないよう確認を徹底している。薬の処方と薬情を確認し、服薬の支援をすると同時に症状の変化の確認を怠らないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭の手入れなど、暮らしの張り合いにしているだけでなく家族からの情報や生活歴や好みに応じて自然体で暮らせる工夫をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族との外出が出来るように支援している。ホームから一緒に連れ立って出掛ける機会が多く、近所の散歩、花見をはじめ、季節の催しに出掛けることを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に小遣い程度の買い物を実施するなど、金銭感覚の維持を目標に、職員の見守りのもとで、可能な範囲で金銭に触れる機会を心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プレゼントが送られてきたときに、お礼の手紙を書く支援をしたり、電話など、家族や大切な人への取り次ぎの支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに職員と入居者が一緒になって、花や壁飾りを替えることで空間演出をし、自然光の入るリビングで心地よく過ごせるよう心掛けている。不快な音や光、振動のほか、除菌や匂いについても快適性を求めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファのほか、ホームの中を自由に行き来でき、思い思いの気に入った場所で過ごしている。景色のよい窓際や、庭先の花壇の近くのベンチは季節によって人気がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具やベッドなどを持ち込まれるよう家族にも協力をいただいている。レクリエーションで作った、気に入った作品は好みの場所への飾りつけで部屋を飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には、ゆっくりつかまり歩きをすることにも支障がない。また、戸惑いの表情を見かけたなら職員からゆっくり順序立てて説明をし、納得を得るよう、わかる力を活かした支援を目指している。		